

2026年4月30日 全7頁

Indicators Update

2026年3月鉱工業生産

無機・有機化学工業などが減産、中東緊迫化の影響が表れ始めた

経済調査部 エコノミスト ビリング 安奈

[要約]

- 2026年3月の生産指数は前月比▲0.5%と2カ月連続で低下した。内訳を見ると、無機・有機化学工業や汎用・業務用機械工業、石油・石炭製品工業などの減産が下押し要因となった。経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。
- 先行きの生産指数は弱含むとみている。AI・データセンター関連需要が国内生産を引き続き下支えするものの、中東情勢の緊迫による供給制約や当該地域向けの輸出の停滞などが下押ししよう。
- 2026年5月12日に公表予定の3月分の景気動向指数は、先行CIが前月差+1.1ptの114.4、一致CIが同+0.3ptの116.6と予想する。この予測値に基づくと、3月の基調判断は機械的に「上方への局面変化」に上方修正される。

図表1：鉱工業指数の概況（季節調整済み前月比、%）

	2025年					2026年			3月	4月	5月
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月				
鉱工業生産 コンセンサス DIR予想	▲1.3	+1.8	+0.6	▲2.0	+0.6	+4.3	▲2.0	▲0.5 +1.1 +1.1			
生産予測調査 補正值(最頻値)									+2.1 ▲0.7	+2.2	
出荷	+0.1	+0.7	+0.9	▲1.0	▲1.1	+3.8	▲1.5	▲1.1			
在庫	▲0.6	+0.3	+0.1	▲1.9	+0.6	▲0.8	+0.3	▲1.5			
在庫率	+1.5	▲1.6	▲1.8	▲0.1	+1.3	▲4.6	+2.0	▲0.4			

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

【生産】無機・有機化学工業や汎用・業務用機械工業、石油・石炭製品工業などが減産

2026年3月の生産指数は前月比▲0.5%と2カ月連続で低下した。無機・有機化学工業や汎用・業務用機械工業、石油・石炭製品工業などの減産が下押し要因となったが、経済産業省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。

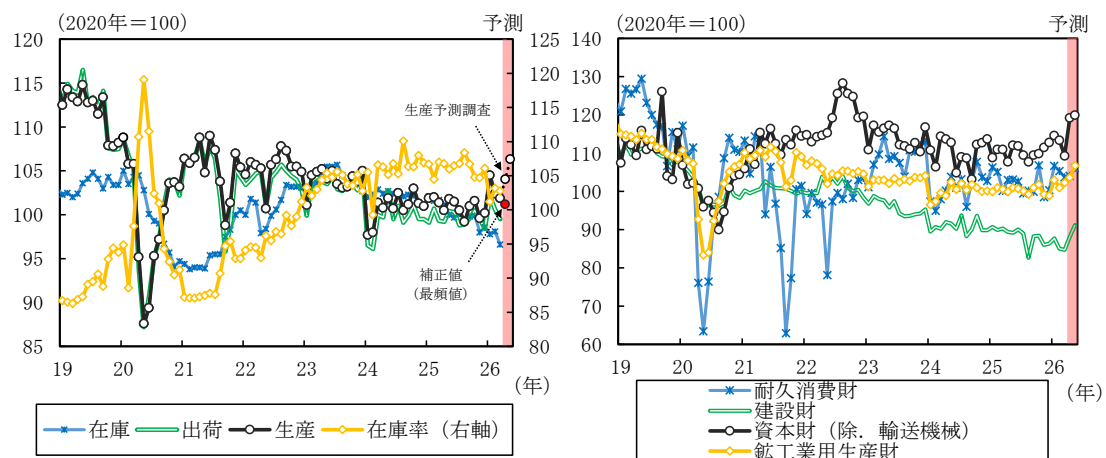
生産指数を業種別に見ると、15業種中8業種が前月から低下した。無機・有機化学工業（前月比▲8.6%）は2カ月連続で低下した。品目別に見ると、ポリエチレン（同▲29.8%）や合成ゴム（同▲13.8%）、エチレン（同▲21.1%）などが減産となった。汎用・業務用機械工業（同▲4.3%）や石油・石炭製品工業（同▲7.7%）なども2カ月連続で低下した。内訳を見ると、汎用・業務用機械工業ではコンベヤ（同▲65.5%）などが、石油・石炭製品工業ではガソリン（同▲7.3%）や軽油（同▲14.3%）、ナフサ（同▲21.4%）などが減産となった。中東情勢の緊迫により原油調達に支障が出始め、石油製品（ガソリン、軽油、ナフサ）や、これらを原料とする製品（エチレン）の生産に影響が表れたといえよう。他方、輸送機械工業（除、自動車工業）（同+10.5%）や生産用機械工業（同+1.3%）、電子部品・デバイス工業（同+1.7%）など6業種は前月から上昇した。なお、金属製品工業は前月比で見て横ばいだった。

財別に見ると、生産財（前月比+1.1%）は上昇した一方、資本財（除、輸送機械）（同▲3.6%）と非耐久消費財（同▲0.9%）、耐久消費財（同▲1.5%）、建設財（同▲0.4%）は低下した。

【出荷・在庫】出荷指数は自動車工業や石油・石炭製品工業などを中心に低下

2026年3月の出荷指数は前月比▲1.1%と2カ月連続で低下した。業種別では、自動車工業（同▲3.6%）や石油・石炭製品工業（同▲5.4%）など15業種中9業種が低下した。財別に見ると、生産財と建設財は上昇した一方、非耐久消費財と耐久消費財、資本財（除、輸送機械）は低下した。在庫指数は同▲1.5%、在庫率指数は同▲0.4%だった。

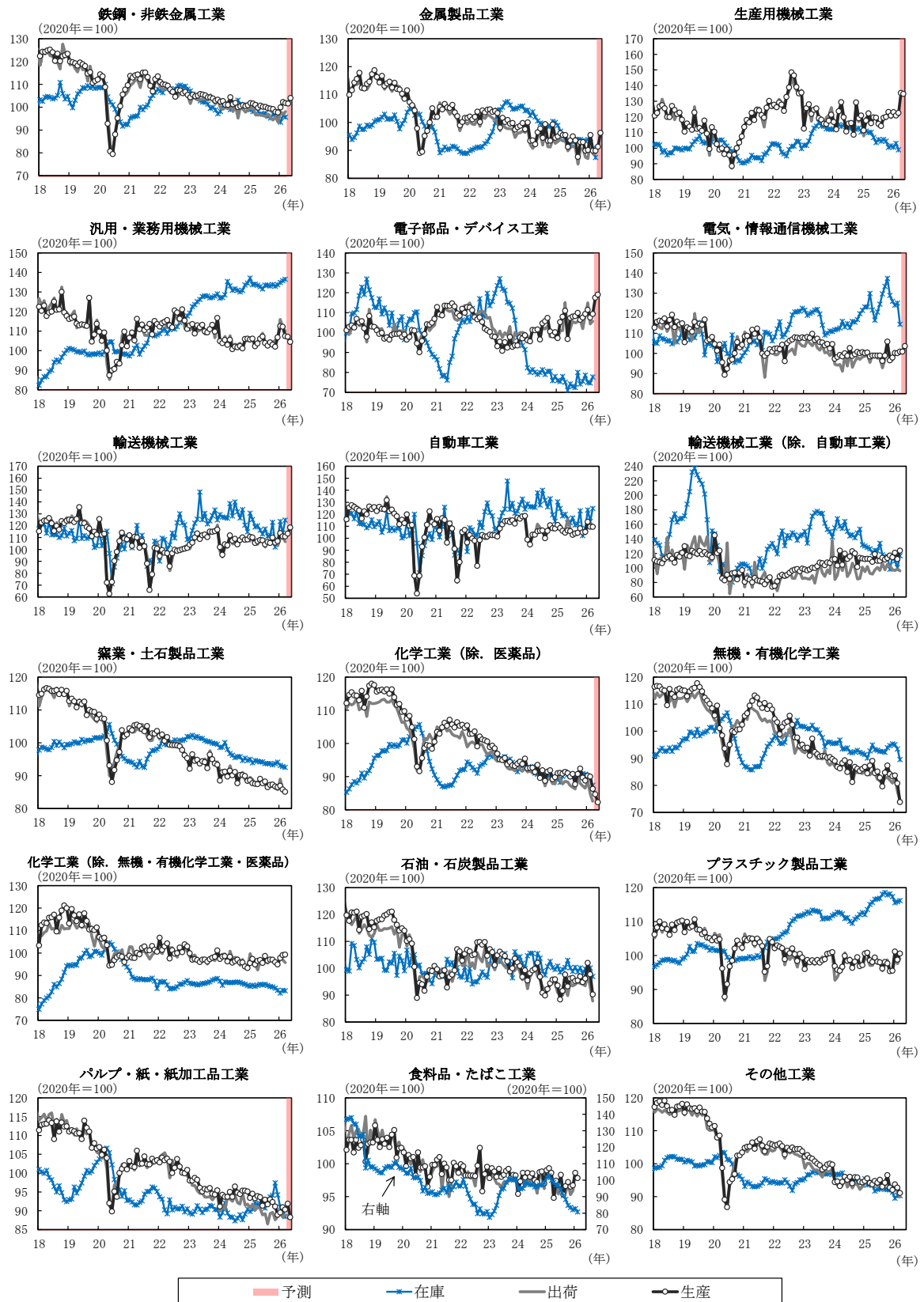
図表 2：鉱工業の生産・出荷・在庫（左）と財別の生産（右）



(注) 生産指数の予測値（赤色）は、製造工業生産予測指数の補正值。その他シャドー部分の値は、製造工業生産予測調査による。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

図表 3 : 業種別 生産・出荷・在庫の推移



(注1) 生産指数の予測値は、製造工業生産予測調査。化学工業（除. 医薬品）の予測数値は、化学工業全体の予測数値を使用。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

【先行き】生産指数は弱含む見込み、中東情勢の緊迫が下押し要因

先行きの生産指数は、弱含むとみている。AI・データセンター関連需要が国内生産を引き続き下支えするものの、中東情勢の緊迫による供給制約や当該地域向けの輸出の停滞などが下押しするだろう。

米国・イスラエルとイランの間では和平交渉に向けた動きも見られたが、中東情勢の緊迫は続いており、ホルムズ海峡もまだ実質的に封鎖された状態にある。通常、日本が輸入する原油の9割超は同海峡を経由しており、原油供給を巡る不確実性は引き続き高い。国内には4月25日時点で211日分の石油備蓄があるものの（国家備蓄・民間備蓄・産油国共同備蓄の合計）¹、封鎖状態が長期化すれば供給制約が強まり、生産活動への影響が深刻化するおそれがある²。

原油は工場の操業に不可欠な重油や軽油の原料であり、その調達難を背景に一部の国内工場では既に稼働停止が行われている³。加えて、石油由来のナフサ（粗製ガソリン）を原料とするプラスチック容器が不足していることから、食品企業などが事業への影響を受けている⁴。基礎化学品として用途の広いエチレンもナフサを原料としており、減産が始まって生産設備稼働率が過去最低となった⁵。また、日本の中東向け輸出の停滞も国内生産の重しとなろう。自動車業界の一部では、中東向け車種の減産・生産停止が既に行われている⁶。実際に、3月分の貿易統計では中東向けの自動車輸出の減少が確認され、当面の間は減少が続く見込みである⁷。

製造工業生産予測調査を見ると、4月の生産指数は前月比+2.1%と見込まれている。業種別では11業種中7業種が上昇する見通しだ。生産用機械工業（同+10.5%）や電子部品・デバイス工業（同+7.5%）、輸送機械工業（同+2.2%）などの上昇が見込まれている。ただし、実際の生産指数は予測値よりも下振れする可能性がある。生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）⁸で見ると、4月は同▲0.7%と低下が見込まれている。

5月の生産指数も前月比+2.2%と増産が見込まれている。業種別では11業種中6業種が上昇する見通しだ。輸送機械工業（同+4.6%）や電気・情報通信機械工業（同+2.7%）、金属製品工業（同+5.4%）などの増産が見込まれている。

¹ 資源エネルギー庁「[石油備蓄の現況（推計値の速報）](#)」（2026年4月30日閲覧）

² 詳細は、田村統久・畑中宏仁「[中東産原油等の輸入10%減少で日本経済はマイナス成長へ](#)」（大和総研レポート、2026年3月18日）を参照。

³ 日本経済新聞 電子版「[ホルムズ海峡封鎖、国内工場・運輸に波及 火力発電の出力抑制や船減便](#)」（2026年3月24日）

⁴ 日本経済新聞 電子版「[ナフサ危機、食品企業4割すでに打撃 容器不足でプリン販売休止](#)」（2026年4月27日）

⁵ 日本経済新聞 電子版「[エチレン設備稼働率、3月68.6%で最低 原料調達の多様化で稼働継続](#)」（2026年4月23日）

⁶ ロイター「[マツダ、中東向け生産を5月も停止 欧米向け拡大で生産計画は維持](#)」（2026年4月6日）、東京新聞 デジタル「[トヨタ、海外で3万8千台減産 中東情勢影響、11月までに](#)」（2026年4月20日）

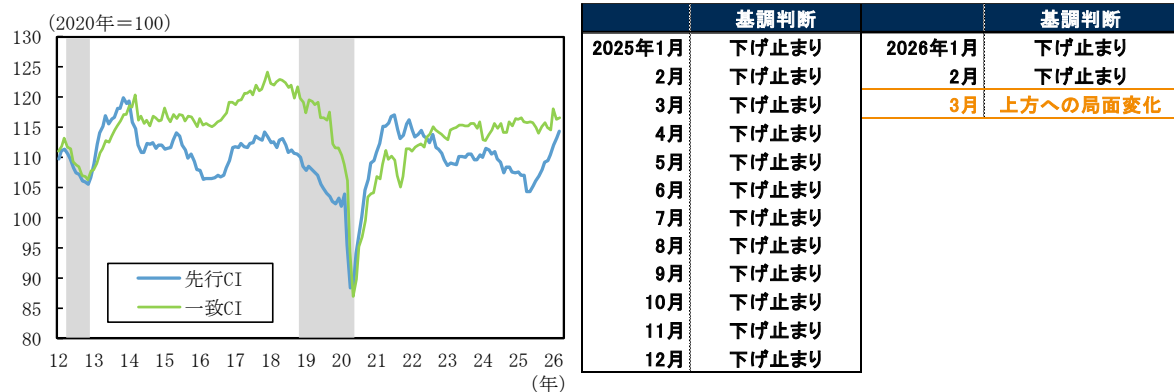
⁷ 詳細は、秋元虹輝「[2026年3月貿易統計](#)」（大和総研レポート、2026年4月22日）を参照。

⁸ 生産計画は生産実績よりも上振れした値となることが多いため、生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）が公表されている。

【26年3月景気動向指数】先行CI、一致CIともに上昇を見込む

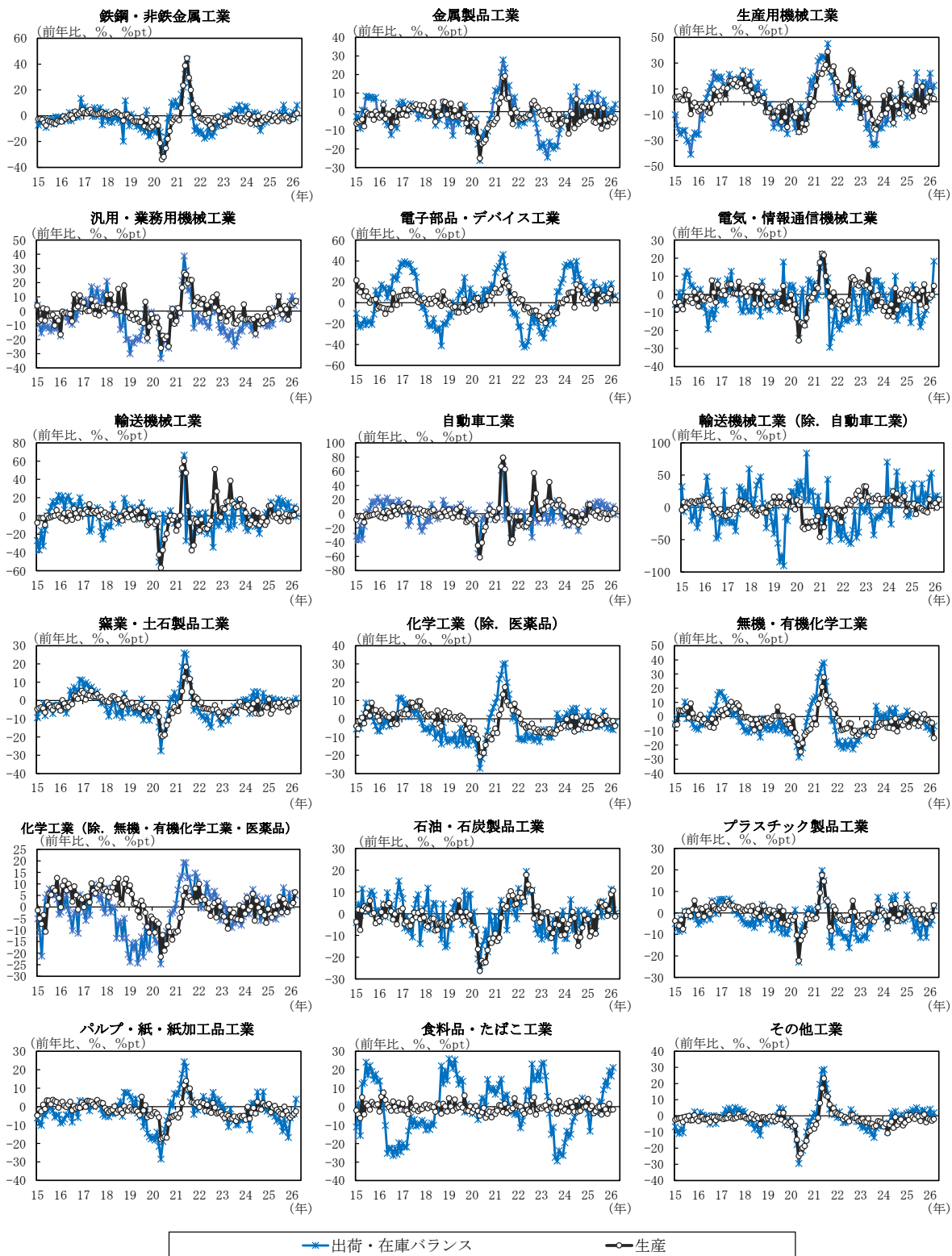
鉱工業指数の結果を受けて、2026年5月12日に公表予定の3月分の景気動向指数は、先行CIが前月差+1.1ptの114.4、一致CIが同+0.3ptの116.6と予想する（図表4）。先行CIでは構成指標のうち、新規求人数（除学卒）やマネースtock（M2）（前年同月比）、最終需要財在庫率指数（逆サイクル）などが前月から改善した。一致CIでは構成指標のうち、輸出数量指数や鉱工業用生産財出荷指数、商業販売額（小売業、前年同月比）などが改善した。この予測値に基づくと、2026年3月の基調判断は機械的に「上方への局面変化」に上方修正される。

図表4：景気動向指数（先行CI、一致CI）と基調判断の推移



（注）左図の直近は大和総研による予測値。シャドーは景気後退期。2026年3月の基調判断は大和総研予想。
（出所）内閣府統計より大和総研作成

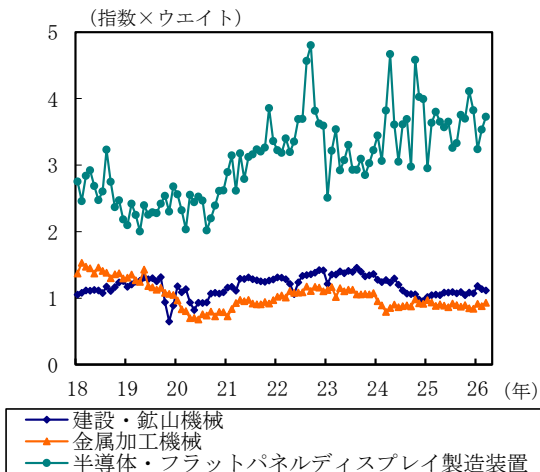
業種別 出荷・在庫バランスと生産



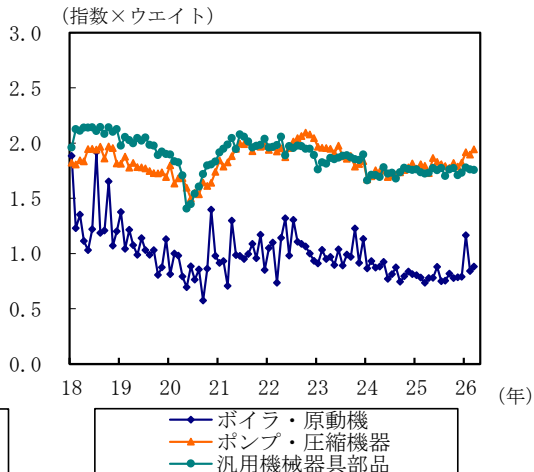
(注1) 出荷・在庫バランス＝出荷前年比－在庫前年比。
 (注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。
 (出所) 経済産業省統計より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

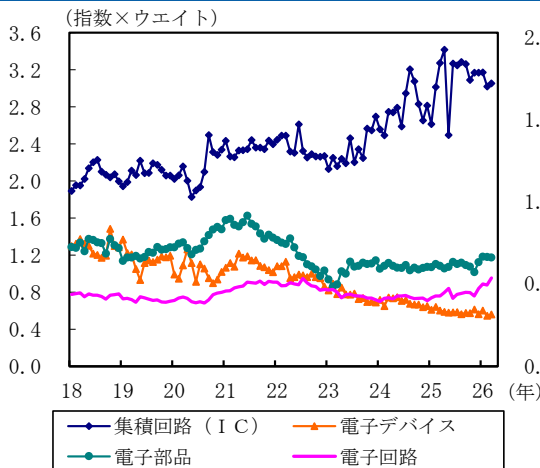
生産用機械



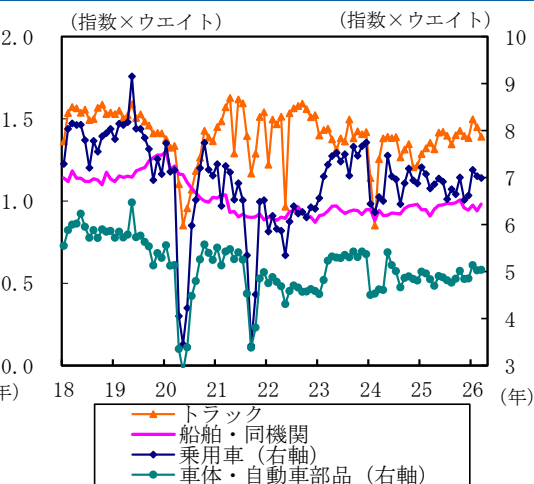
汎用・業務用機械



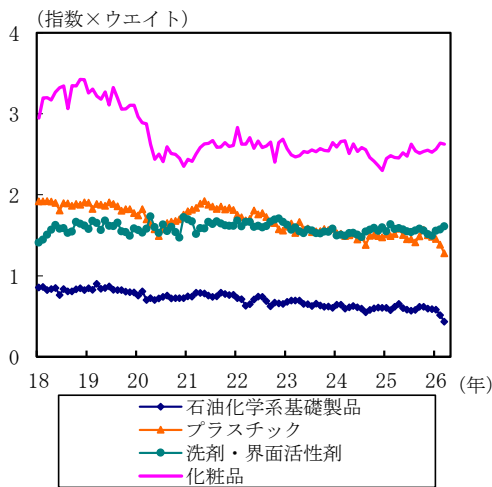
電子部品・デバイス



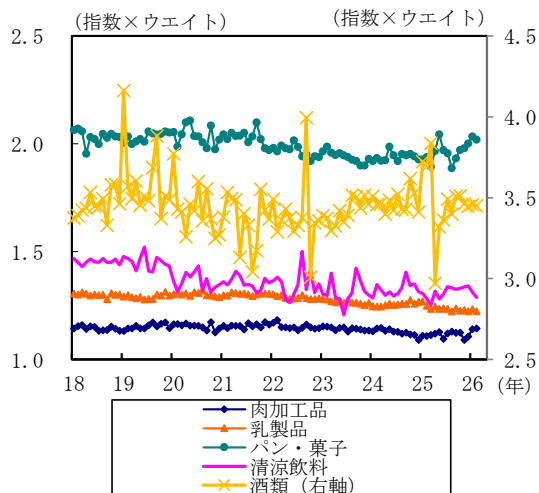
輸送機械



化学



食料品・たばこ工業



(注) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため、直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成